

目次

(1) 事業報告

■ 外国人のための防災セミナー実施

(とよなか国際交流協会との共催事業)

■ 東北報告

(2) 留学生特集

■ 専門学校の留学生受入と大阪府内の留学生の今後を考える

■ 府内の留学生受入状況

■ 大阪府堺留学生会館オリオン寮の紹介

(3) 外国人情報コーナー

■ 子どもが生まれたら(新しい制度になってから)

(4) OFIX 国際交流員のレポート

■ 笑うフィリピン人

(1) 事業報告

■ 外国人のための防災セミナー実施 (とよなか国際交流協会との共催事業)

当財団では防災関連事業として、これまでは外国人市民向けの避難訓練や、災害時多言語支援センター立ち上げ訓練などを行ってまいりましたが、やはり防災力の鍵になるのは、地域連携であると考え、地域に根差した災害時外国人支援を推進し、更なる地域力・防災力の向上をねらいとして、今年度より地域の国際交流協会等と共に防災事業を実施することといたしました。

今回はその取り組みの第一弾として、(公財)とよなか国際交流協会との防災訓練を紹介いたします。

『外国人のための防災セミナー』

日時 平成24年7月27日(金) 10:30～12:30

場所 とよなか国際交流センター

豊中市消防本部のご協力のもと、火の取り扱いを注意喚起するDVD上映の後、防災士の方より火災報知機の重要性に関する講義に続いて、とよなか国際交流センターで火事が発生した

という想定で、避難訓練が行われました。

訓練終了後には、消火器の使い方をご指導いただき、外国人参加者だけではなく、日本人参加者にとっても、とても勉強になる一日でした。



この事業では継続して共催希望団体を募集しております。

ご興味のある市町村・地域国際交流協会は、当財団までご相談ください。

■ 東北報告

7月5・6日にかけて、岩手・宮城・福島 三県国際化協会主催による防災シンポジウム並びに被災地(南三陸町)視察に参加しました。

シンポジウムでは、冒頭に忘れられない、忘れてはならない、あの日の風景が、阪神・淡路大震災の被災地の夜を綴った楽曲『満月の夕』の調べと共にスクリーンに映し出されました。思わず目を背けたいような場面も、被災者ではない私達ですら自然に涙がでてしまうような場面も、全てが鮮烈に脳裏に残りました。そんな張りつめた空気の中、三県国際化協会の取り組みの紹介に続きパネルディスカッションが行われました。ディスカッションでは、三県に在住する外国人住民が登壇して、時には声を詰まらせながら、つぶさに当日の状況を語りました。その様子から、丸一年以上が経過した今でもなお、いかにこの大震災が東北で暮らす方々にとって、大きな影を落としているのかを改めて感じました。

翌日に被災地見学で訪れた南三陸町では、車の通行が出来るよう道路上こそ片付けられていたようですが、まだ浸水したエリアには、建物の上に船が乗っていたり、押しつぶされた車が山積みになっていたり、テレビで何度も繰り返し映像が流れた防災庁舎には鎮魂の折り鶴が並べられたりと、津波の爪痕を色濃く残していました。そんな風景の中でも、町には仮設商店街ができ、少しばかりの賑わいを取り戻し、また外国人住民や私達を

案内して下さった地元ボランティアの方々、また他地域から来た若いボランティア達も力強く活動していました。

二日間の滞在を通じて感じたことは、ありきたりかも知れませんが、恵みとも脅威ともなりうる自然の力の偉大さと、その自然と共存して暮らしてきた地域の人々の力強さです。幼い頃に、神様は乗り越えられる困難しか与えないと聞いたことがあります。それが本当だとすると、きっとこの未曾有の大震災を、東北三県は乗り越えられるのではないのでしょうか。その証拠に、復興への歩みはゆっくりでも着実に、地元の人々によって進められています。



災害は人・時間・場所を選ばないと言う意味で、完全な平等主義者だと表現されることがあります。その点から言えば、大阪も例外ではありません。当財団では『防災』の意義を改めて考え、

これからも減災に繋がる取り組みを推進していく所存です。

(企画推進グループ吉川 友香)

■専門学校の留学生受入と大阪府内の留学生の今後を考える

大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）

留学生委員会 崎村 真

専門学校で留学生の受入が始まったのが、1980年代の後半からでしょうか。最初は、国費の留学生の受入からでしたが、すぐにいくつかの専門学校で日本語学科ができ、私費の留学生の受入が始まりました。私の学校でも1989年に日本語教育学科を開設し、本格的に留学生の受入を開始しました。当時は大学も専門学校も留学生の受入はまだ本当に少なく、また一部に限られていました。当時は日本人の身元保証人がいないと大学や専門学校へ進学ができない時代でした。また留学生に密接な住宅も身元保証人を要求されましたし、そもそも留学生受入が可能なアパート探しに苦労しました。

2000年を過ぎたあたりからだと思いますが、流れが変わってきました。大学や専門学校が積極的に留学生獲得に取り組み始めました。これは、日本の少子化と中国の経済発展がその原動力になったように思います。しかし当時一気に受入を拡大したので、いろいろな不都合も多く発生しました。その一つが不法滞在者の増加です。当時は中国のどこに行っても日本留学希望者であふれていました。中国もようやく私費留学ができるようになったからでしょうか、だれでもが海外留学を希望していた、そんな時代でした。私達の学校は、入学希望者を厳選していたので、大きな問題は出ませんでした。日本の多くの日本語学校や大学、専門学校では、留学生担当者が、かれらの在籍管理に苦しんだ時代です。そんな中で2004年頃から、留学生の受入に法務省主導で、厳格な審査をするようになりました。2008年ごろには留学生の受入は、ようやく安定していたように思います。府内でも留学生がいることが当たり前になり、地域社会が留学生の受入態勢の整備を進めたことも大きかったと思います。留学生のアパート探しも随分楽になりました。また公共団体のサポートの態勢も随分整ってきたと思います。留学生の就職にも焦点があたり始め、留学生の就職のサポートが各分野で積極的な取り組みが始まりました。留学生のための合同説明会なども多く開催されるようになりました。

さて、その頃から、5年たって、また大きな変化が起きています。それは、留学生の就職についての状況と留学生の国籍についてです。就職について考えると日本全体では、2005年から右肩上がりです。留学生の就職が増加し、2008年をピークに今年度は減少に転じました。しかし昨年以降、留学生の採用の動きがまた活性化してきています。一つには、留学生受入の態勢の強化でワンストップサービスをしようとする努力が報われてきたこと。実際、今年の3月には、私達の学校でも専門課程に在籍する留学生の就職希望者をおおむね全て就職させることができました。学校で留学生のための就職指導を本格化させた

結果だと自負しています。この背景に円高による中小企業の海外進出が活性化したこともあります。国内採用だけでなく、ブリッジ人材という言葉もよく叫ばれるようになりました。また企業が必要とする人材も東南アジアが増え多様化してきました。この動きに合わせて留学生も今年を起点に東南アジアの諸国からの留学生が増加し始めています。

留学生採用で学校と企業との交流も本格的になりました。私達の学校でも企業との交流会を積極的に実施しています。写真は今年実施した「国際人材活用ネットワーク交流会」の写真



です。多くの企業と多くの学校、多くの留学生が参加した熱気ある交流会です。こうした交流会を通じて、企業のインターンシップや採用が増えただけでなく、地域での留学生活用の事例も増えてきています。地域が留学生の存在に気づき、これまでは留学生が困らないようにするために一生懸命でしたが、今度はより積極的に活用しようとして出しています。昨年は浪速区の防災訓練では、留学生が参加し、地域の車椅子のお年寄りをケアする訓練も実施しました。また観光に訪れる外国人の通訳サービスで地域の商店街などと協力して留学生が活用されだしています。地域活性化に留学生を活用するメリットに、皆が気づき始めています。

振り返るとあつと言う間の25年ですが、時代の変化の凄まじさを感じます。お客さん扱いだった留学生たちが、本格的に社会の一員として受け入れられる時代になりました。大阪府でも今年より「大阪府国際化戦略アクションプログラム」を開始し、行政が本格的な整備に乗り出しています。留学生を受け入れることが地域の国際競争力を強化し、地域振興の大きなメリットがあると皆が気付いた結果です。この仕事をやってきて本当によかったと思います。

※執筆いただきました崎村先生は大専各留学生委員会でご活躍されるとともに(学)エール学園の理事を務めておられます。

■ 府内の留学生受入状況

【独立行政法人日本学生支援機構のデーターから見た、府内の留学生の状況】

大阪府内の受入れ学校数

学校種別	受入学校数
大学・短大	48
専修学校等	74
合計	122

国費・私費別留学生数

	大学・短大	専修学校等	合計
国費留学生	690	51	741
私費留学生	7,050	2,534	9,584
合計	7,740	2,585	10,325

住居形態別留学生数

学校が設置・借上する留学生向け宿舎	1,121
一般学生用寮・宿舎	51
地方公共団体・公益法人が設置する宿舎	150
民間宿舎・アパート等	9,003
計	10,325

出身国（地域）別留学生数 上位5カ国（地域）

国(地域)	留学生数
中国	6,722
韓国	1,067
台湾	623
アメリカ合衆国	218
タイ	198

※調査基準日：平成23年5月1日現在

■ 大阪府堺留学生会館オリオン寮の紹介

大阪府堺留学生会館オリオン寮は、将来の友好の架け橋となる留学生を大阪に呼びこむ為、平成7年に大阪府が設立しました。その後、平成21年に大阪府国際交流財団が譲り受け管理運営を行っています。会館には85名の留学生が住んでいます。半数以上が中国人、次いで韓国、ドイツ、台湾、フランス、ベトナム、ラオス。他にロシア、オーストリア、エルサルバドル、インドネシア、タイ、スリランカからの留学生がいます。2人の管理人が交代で勤務し、寮生を温かく、時に厳しく見守ってくれています。寮生の中には、会館内の事業に率先して参加し OFIX と寮生との橋渡しをしてくれるしっかり者のチューターが男女一人ずついます。今回は、そんな優しい管理人とチューターをご紹介します。

管理人の紹介

●瀧 純二 管理人

オリオン寮の管理人を始めて3年になります。最初はスペイン・ポルトガル語圏の学生が居ればよいと思っていましたが、寮生の大半がアジアからの留学生でした。この仕事を始めてまず驚いたのは韓国や中国の学生が話す日本語レベルの高さでした。私が普段通り話してもちゃんと理解し適切な返事が返ってくる。これには驚きました。85名の寮生(出身国はいろいろ)が共同生活しているので、毎日いろいろなトラブルが発生します、大半は自炊室の使用マナーに関するトラブルです。寮生は学習能力の高い留学生ばかりですが、マナーの点では今一つです。生活マナーも高レベルであれば仕事も楽になると思う今日この頃です。管理人を続けて今まで嬉しかったことは寮生にプライベートな相談や就職の相談を持ちかけられ、私のつたない経験と話し一緒に解決策を考えたことです。

またトラブルかと思う毎日ですが、今後もマンネリに陥らないように気を付けたいと思います。

●仲村 弘己 管理人

オリオン寮では2人の管理人が勤務しています。私はこの寮の管理人を昨年4月からスタートしました。それまでは外資系の会社で33年間エンジニアとして機械相手の仕事をしてきました。こちらで仕事をできるようになり、若い人達が相手に最初は戸惑いもありましたが、今はだいぶ慣れました。新しく日本に来た人達は希望と同時に知り合いも少なく、不安な気持ちを持っていると思います。私は寮生を見かけたら「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」の挨拶と出かけるのを見かけた時には「行ってらっしゃい」帰って来た時には「お帰りなさい」の声掛けをできるだけするようにしています。とても日本的な挨拶言葉ですが、そういう習慣のない国から来た人にとっては驚き？で最初は戸惑って無反応の人もありますが、毎日繰り返していると文化は違っても心は通じるようで、だんだん返事を返してくれるようになり、こちらも

嬉しくなります。これこそ異文化コミュニケーションだと思っています。

チューターの紹介

●デウィ・クスリニさん(インドネシア 大阪府立大学)

以前、団地のような寮に住んでいたとき、「寮はリラックスする場所」でしかなかったのですが、オリオン寮に入ったら、他の留学生や社会人と交流ができる歓迎会を始め、自分の趣味を広める卓球台やピアノがあり、日々より楽しく過ごせるようになりました。大阪府立大学や桃山学院大学、専門学校など様々な教育機関に通っている留学生が住んでいるので、面白い仲間がすぐに出てきてしまいます。勉強に集中したい人にはOA室も利用できるし、勉強の息抜きに集会室にあるピアノや卓球台、フラフープで体を動かし、リフレッシュできます。談話室でケーブルテレビを見ながら、友達と喋ったり、キッチンで各国の料理を作って一緒に仲良く食べながら、勉強のことや自分の国の文化について語りあうこともできます。日本での生活で困っていることがあったら、いつも笑顔で迎えてくれる優しい管理人さんが対応してくれます。とにかく、「寂しい」「ホームシック」というイメージとは程遠い場所だと私は感じています。

寮の中だけじゃなく、外の施設にも気軽にアクセスできます。寮の近くには大仙公園という有名な公園があり、そこでジョギングやウォーキング、広い芝生でヨガもできます。季節によっては桜ともみじも楽しめます。また、堺市といえばお茶、自転車、古墳が有名で、仁徳天皇の古墳や周辺にある自転車博物館も見学できたり、公園内の日本庭園で日本茶も味わえます。オリオン寮に住むことによって、勉強、観光、広い意味での大阪の文化を仲間と実感でき、自分の視野を広げることができて、すごくよかったです。これから入る皆さん、ぜひそれらを実感してみてください。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

オリオン寮では府内の学校と連携し、「留学生のための災害時通訳翻訳研修」「災害訓練・多言語支援センター設置訓練」「高等教育機関留学生担当者防災ワークショップ」等の災害時の留学生支援、キャリアカウンセリングや就職セミナー、企業と留学生のマッチング等の留学生の就職支援に取り組んでいます。

また、地域の方々と親睦を深めるための地域交流、大阪府立大学国際交流サークルオリオンの学生と寮生との国際交流の場としても活用して頂いています。留学生の皆さん、楽しくて留学生活に役立つオリオン寮の寮生になりませんか？現在、10月からの入居者を男女各10名程度募集しています。入居ご希望の場合は学校の留学生担当課を通じて申し込んでください。

<http://www.ofix.or.jp/shien/index.html>

